

旧徳中
城南高

同窓会々報

第99号

創立150周年記念 ～歴史と伝統を受け継ぎ、新たな未来へ～

同窓会会長 酒池 由幸 (昭和50年卒)

会長挨拶



1875年(明治8年)の創立以来、城南高等学校は徳島の教育を支える中核として、多くの優れた人材を社会へ送り出しておりました。昨年、母校は創立150周年という歴史的節目を迎え、記念事業を無事に執り行うことができましたことは、長年にわたり母校を温かく見守り、支えてくださった同窓生の皆様、ならびに地域・関係各位の皆様のお力添えの賜物であり、ここに謹んで深甚なる感謝を申し上げます。

記念事業の実施に際しましては、企業・団体の皆様、そして全国の同窓生の皆様より、心温まるご寄付とご支援を賜りました。寄せられたご厚志は、母校への揺るぎない愛情と後輩たちへの大いなる期待の象徴であり、同窓会としてもその重みを改めて胸に刻んでおります。

こうしたご支援は「城南生ジャンプアップ基金」として結実し、生徒たちの探究活動、国際交流、部活動の充実など、未来を切り拓く学びを力強く後押ししております。現在、城南高校ではSSHの取り組みを軸に、地域と連携した課題解決型学習や企業との協働による実践的な学びが進み、生徒一人ひとりが主体性と創造性をもって成長できる環境が着実に整いつつあります。

150周年記念式典におきましては、生徒が主体となって式を進行し、城南らしい温雅さと活気に満ちたひとときとなりました。先輩から後輩へ、そして後輩から未来へと想いが受け継がれていく姿に、世代を超えたつながりと母校への誇りを改めて深く実感したところでございます。

創立以来、城南高校は「自主自立」「文武両道」を校是として掲げ、時代の変化に応じながらも、その精神を脈々と受け継いでまいりました。150周年を機に生徒たちが掲げたキャッチコピー「ジョウナンらしく、あたらしく。」は、まさにこの伝統と革新の調和を体現する言葉であり、次の時代へ向けた母校の姿勢を鮮やかに示すものといえます。

150年の歩みを振り返るとき、私たちは先人の築き上げた歴史の重みとともに、新たな時代を担う若人を育てる責務の大きさを痛感いたします。城南高等学校は今、次の100年へ向けて確かな歩みを始めました。同窓会といたしましても、皆様からお寄せいただいた温かい思いを礎とし、母校のさらなる発展と後輩たちの成長を、これからも力強く支えてまいり所存でございます。

結びに、これまで賜りましたご厚情に心より御礼申し上げますとともに、今後とも変わらぬご支援とご協力をお願い申し上げます。

旧徳中・城南高等学校同窓会 2026年度 総会・懇親会

2026. 8/9 (日)

時 間 10:30～14:30

- ・総 会 10:30～11:30
- ・講演会 11:30～12:30
- ・懇親会 12:30～14:30

申込み

7/31 (金)
まで

会 場 阿波観光ホテル

演 題 「未知のペプチドホルモンへの挑戦」を顧みて

会 費 昭和卒 10,000円
平成卒 6,000円
令和卒 3,000円

若い世代の皆様にもご参加いただきやすいよう、先輩方の温かなご厚意により、会費の応援をいただいております。
是非、懇親会で世代の垣根を越えて、楽しいひと時をお過ごしください。

講 師 かんがわ けんじ
寒川 賢治 様
■ 略 歴

- ・城南高等学校 昭和42年卒業
- ・大阪大学大学院理学研究科博士課程修了(理学博士)
- ・国立循環器病センター研究所 生化学部 部長を経て、同研究所長に就任。
- ・独立行政法人(現 国立研究開発法人)国立循環器病研究センター理事・研究所長を歴任。
- ・現在、国立研究開発法人国立循環器病研究センター 名誉研究所長。

ノーベル賞級 クラリベイト引用栄誉賞受賞!!
トップ科学者ランキング国内4位! (2025/2026年版 Research.com)
ペプチドホルモン研究の第一人者として世界的に活躍。
申 込 方 法

申込QRコード・Mail・電話で受け付けております。

<https://forms.gle/3ZxkoSEFQg6k56oQ7>

旧徳中・城南高等学校同窓会事務局

Mail: jonan.dousoukai@gmail.com

TEL: 088-652-0084

(月・水・金 9:30～15:00)


申込QR

今年度は平成8年度卒業の皆さまが幹事年として、総会・懇親会の準備や当日の運営にご協力いただいております。お力添えをいただき、誠にありがとうございます。当日もどうぞよろしくお願いいたします。

※最終ページ(16ページ)に会報に関する大切なお知らせを掲載しております。必ずご確認くださいませようをお願いいたします。

《 創立150周年記念式典 》

プログラム

第1部 開会セレモニー

1. 開会宣言
2. 国歌斉唱
3. 学校長式辞
4. 創立150周年記念事業 実行委員会委員長挨拶
5. 生徒代表挨拶
6. 来賓祝辞
7. 祝電・祝文披露
8. 記念制作・キャッチフレーズ等考案者紹介

第2部 過去と現在を結ぶ

1. 歴史を振り返るスライドショー
2. ビデオレター
3. 記念講演

第3部 アニバーサリーパフォーマンス

1. 部活動コラボショー 書道部 吟詠剣詩舞同好会 ダンス同好会 吹奏楽部
2. 校歌三部作斉唱
3. 閉会宣言

ビデオレター出演者

- (1) 徳島県議会議長／須見一仁
- (2) SSK 税理士法人・税理士／佐々木梨絵
- (3) 株式会社日建設計アソシエイト アーキテクト／花岡竜樹
- (4) 広島東洋カープ／岡本 駿
- (5) 元徳島県公立中学校教員／西角祐香
- (6) Yoshihara McKee Architects 建築家／吉原弘記
- (7) HTB 北海道テレビ放送編成局アナウンス部／福永裕梨
- (8) ミス・ユニバース・ジャパン ナショナルディレクター／美馬寛子
- (9) 国立循環器病研究センター元研究所長／寒川賢治

記念講演

- 演題 「城南から世界へ～次の150年を拓くチカラ～」
- 講師 日本生命代表取締役会長／清水 博氏（昭和54年卒）

ビデオメッセージ(クロストーク)・記念講演(第2部)

続く第2部では、各界で活躍する卒業生によるビデオレターが上映されました。

あえて1人の講演に限定せず、多彩な分野の先輩方による「クロストーク形式」を採用したことで、生徒たちは多様な進路や価値観に触れることができました。様々な分野で活躍する先輩方からの言葉は、生徒たちが自らの将来を主体的に描くための、大きな契機となったことと思います。

1人の講演ではなく、多くの卒業生の声を届ける構成としたことで、それぞれの生徒の心に響くメッセージが届けられました。

また、記念講演には日本生命保険相互会社 代表取締役会長 清水 博氏（昭和54年卒）から、「城南から世界へ 次の150年を開く力」と題して、ご登壇いただきました。今しかできないことに精一杯取り組み、悩みも楽しみもすべてを将来の糧として、自分を信じ世界を舞台に大きな花を咲かせて欲しいと温かいエールがおくられました。



式典の内容を
ご覧になる方は
こちらから



第1部
開会セレモニー



第2部
過去と現在を結ぶ



第3部
アニバーサリーパフォーマンス



クロストーク



中川慎一郎 先生

昨年、本校は創立150周年という大きな節目を迎えました。長い年月の中で、多くの卒業生が母校を巣立ち、それぞれの場所で活躍しながら城南高校の歴史をつないでこられました。今回の記念式典は、その歩みを振り返るとともに、次の時代へ思いをつないでいく大切な機会となりました。

式典では、節目にふさわしい厳かな雰囲気大切にしながらも、「現役の生徒が輝く場にしたい」という思いで準備を進めてまいりました。

式典は3部構成になり、第1部では、式辞や来賓祝辞などが行われ、150年の歴史とその重みを感じる時間となりました。

第2部では、各界で活躍されている同窓生からのビデオレターが紹介され、先輩方からの温かいメッセージが在校生に大きな励ましを届けていただきました。記念講演をいただいた清水様からのメッセー

ジも城南生の背中を押すものでした。

第3部では、生徒による記念ステージが披露されました。吹奏楽部、書道部、ダンス同好会、吟詠剣詩舞同好会などが協力し、音楽や書道、ダンスを組み合わせながら1つの舞台をつくり上げました。それぞれの表現がつながり合うステージは、生徒たちの無限の可能性と自主・自立の校風のままだに、多彩な魅力を感じさせるものでした。

準備期間は決して長くはありませんでしたが、多くの生徒や教職員が力を合わせ、試行錯誤を重ねながらこの舞台を作り上げました。当日は「すごかった」「いい式典だった」という声も聞かれ、150年の歴史の重みと、これから始まる新しい時代への期待を感じ、心に刻む1日となりました。

150周年という節目には、先輩方が築いてこられた歴史と、これからの城南高校を担う生徒たちの姿が重なっています。受け継がれてきた思いは、これからも世代を超えてつながり、城南高校の新しい歩みへと続いていくと思います。

同窓生の皆さまには、これからも母校を温かく見守っていただき、城南高校のさらなる発展をともに支えていただければ幸いです。



和泉 康洋 先生
(平成 9 年卒)

“伝統と革新が織りなす、総合パフォーマンス”

創立150周年記念式典はこれまでの周年行事とは一線を画す、生徒たちのエネルギーに満ちあふれた1日となりました。

今回のプロジェクトが始動したのは2年前です。「生徒たちの記憶に残り、彼らの未来に還元

されるものにしたい」という実行委員会の生徒たちへの強い思いから始まりました。

2部のハイライトを飾ったのは、「城南の歴史と未来」をテーマとした総合パフォーマンスです。吹奏楽、書道、ダンス、そして吟詠剣詩舞。普段は個々に活動する各部が、この日のために1つの「表現」として融合しました。各

部それぞれに練習を積み、本番直前に1つの大きなうねりとなって結実しました。

フィナーレでは、本校卒業生の作曲家によって新たに編曲された「校歌3部作」が吹奏楽の響きとともに、150年の歩みとして会場全体を包み込みました。

「ジョウナンらしく、あたらしく。」

生徒たちが考案したこのキャッチフレーズの通り、伝統を尊びながらも、常に新しいものへ挑戦していく姿勢が体现された式典でした。

150年の大きな節目は、城南高校の「自主自立」「文武両道」の精神が次の世代へと受け継がれ、さらなる発展へとつながっていくことを、力強く感じさせるものとなりました。

TVでも放映！城南150周年Tシャツ

創立150周年という大きな節目を迎えた昨年、記念行事の中でもひととき新鮮やかな記憶として残っているのが、校内を彩った「記念Tシャツ」の存在です。このプロジェクトは、生徒や教職員、そして同窓生の皆様を1つに繋ぐ大きな力となりました。

デザインの核となったのは、本校OBのデザイナー・白桃さんによる150周年ロゴです。そこに美術部員たちが情熱を注いでブラッシュアップしたマスコットキャラクター「ジョーくん・みなみちゃん」を融合させました。伝統を重んじるロゴと、親しみやすいキャラクターを配置した4色(白・ブラック・グリーン・ネイビー)・4種類のデザインは、どれも城南らしい個性が光る仕上がりとなりました。

街中でTシャツを着て過ごす生徒たちの姿は、地域の方々にとっても「150周年の城南」を身近に感じていただくきっかけとなり、世代を超えた「母校への誇り」を共有する素晴らしい機会となりました。

TVなど各メディアで
大きく紹介されました

グリーン



ネイビー



「城南らしくあたらしく」

キャッチフレーズ考案
中島 優斗 (令和 7 年卒)



デザイン考案
竹原 杏 (令和 7 年卒)



デザイン考案
天野 沙紀 (令和 8 年卒)



田村 純子 先生

～ 創立150周年記念モニュメント制作に寄せて ～

城南高校が創立150周年という大きな節目を迎えられましたことを、心よりお祝い申し上げます。150年という歳月は、多くの卒業生が社会へ羽ばたき、さまざまな分野で活躍してきた歴史の証であり、この学び舎を支えてこられた歴任教職員の熱意と誇りの積み重ねでもあります。その伝統を受け継ぐ城南高校で、生徒たちとともにこの節目の年を迎えられることに、教員として深い感謝と喜びを感じております。

寄贈いたしました作品のタイトルは「Phoenix」です。

150年の伝統を礎に未来へ羽ばたく生徒たちへの希望を込めるとともに、本校の伝統行事「ファイヤーストーム」の燃え上がる炎のイメージを重ね、情熱と結束、未来へ受け継がれる力を表現しました。

大谷焼の窯元で培った造形技法を用い、手びねりによる躍動的なフォルムに、ラスター彩を施し、光や角度に

よって表情が変化する仕上がりとしています。

また、日本の伝統文様である鱗紋を取り入れ、新たな始まりと繁栄の願いを込めています。

「ジョウナンらしく、あたらしく。」。伝統を礎に、自ら新しい風を吹き込んでいく生徒たちの歩みを、この作品が末永く見守り続けることを願っております。

大窪 圭 先生
(平成3年卒)

— 城南150年 その想いを舞台に —

創立150周年記念式典の第3部は、書道部、吟詠剣詩舞同好会、ダンス同好会、吹奏楽部の4部による合同パフォーマンスでした。私はダンス同好会顧問として関わりましたが、この企画は当初から明確なコンセプト

が決まっていたわけではなく、ショー全体の構成に先立つイメージを模索するところからのスタートでした。

「表現する」という共通点を持ちつつも、その内容や方法が大きく異なる4つの部がどのようにコラボレーションできるのか、どうすればひとつのステージにまとめられるのかが大きな課題でした。ただ、それぞれがやりたいとイメージしていることを集めていく中で、城南高校の150年をたどる形で、各部が時代ごとの表現を担いながら1つの流れを紡いでいく構成にたどり着きました。

ピアノの不協和音に続き「詩吟流星」の雄叫びが響き渡るなか、書道部が詩をしたため、その8枚にわたる書を背景に詩吟と舞が続きます。打楽器の曲に合わせ、時代の混沌と覚醒を集団ダンスで表現し、戦争の無為や改心を吹奏楽の美しい音色が慰めます。令和の高校生が岡本監輔校長の漢詩を吟じ、バブリーな時代を現制服で踊る…フィナーレではこの不安定な時代を強く生きる、

というメッセージを全員総出で表現しました。

演出において、ナレーションも大切な要素でした。時代背景や社会状況を観客の皆さんに理解してもらうことではじめて、生徒たちの表現が意味を成します。できるだけ正確に伝えられるよう、当時を語る資料や記録を手掛かりにナレーションを完成させました。ナレーション中は大型スクリーンにイメージCGを投影し、ステージ全体が1つの場面として見えるようにしました。照明など舞台裏でもたくさんの生徒たちが支えてくれました。

準備期間は決して長くなく、4つの部がそろって通し稽古ができたのは、本番前のわずか2回です。それでも生徒たちは全体のイメージとそれぞれの役割を理解しながら、個性を失うことなくステージを作り上げていきました。本番、前日リハーサルで伝えたイメージ通りの表現をやり遂げる姿を見て、改めて感心させられました。

私自身、本校卒業生そして職員でありながら、学校の歴史を強く意識することはありませんでした。今回この式典に関わることで、長い年月多くの人々がこの学校を支え、歩みをつないできたことを改めて実感しました。また何より、生徒たちがこの歴史や営みを懸命に表現したという事実こそが、この式典の意義だったと思います。

今回の経験が生徒たちの心に残り、これからの城南高校の新たな歩みにつながることを願っています。

(生徒会長)

安原 陽奈

創立150周年という記念すべき年を在校生として祝えたことがとても嬉しく、貴重なものと思えた1年でした。



記念式典は3部に分かれた構成で、城南高校ならではの素晴らしい伝統に身に染みて感じることができました。この1年を通し、私は「城南高校の伝統」とは何なのかを深く理解できたように思います。それは「時代に合わせて進化し続ける柔軟さと、古き良き誠実さを決して失わない」であると確信しました。

そして、150周年のキャッチフレーズである「ジョウナンらしく、あたらしく。」、これこそ城南高校の良さを一言にまとめた素晴らしい言葉、そして城南高校が今後とも守り抜くべき指針であると感じました。

城南高校がさらに素晴らしい学校へと進化し、在校生がいつまでも自信を持って「わが母校」と誇れる場所であり続けられるよう、私自身もより一層成長していきたいと思います。

(第3部ナレーション)

島 悠佳

私は、創立150周年記念式典第3部でナレーションを務めさせていただきました。依頼を頂いたときは、150周年という一度きりの大きな式典で、本当に自分に務まるのか、上手くできるのか不安でしたが、毎日昼休みに担当の先生にご指導いただき、表現の仕方やタイミングなど細かいところまで調整し、本番に向けて準備をしていきました。リハーサルを重ねて本番を迎え、自分なりに責任をもって役割を果たせたときには、大きな達成感を感じました。また、このような行事には、多くの人の支えや準備があることを学び、感謝の気持ちを強く持ちました。さらに、「ジョウナンらしく、あたらしく。」をテーマにして作成されたTシャツは、自分の好きな色やデザインを選ぶことができ、毎日それを着て学校生活を送れたことは、新鮮で楽しくもあり、150周年という節目の年の城南高校生として、とても誇らしい気持ちになりました。



このような貴重な経験をさせていただけたことに感謝し、これからも様々なことに挑戦して、城南の伝統を紡いでいきたいと思っています。

(第2部ナレーション)

松尾 理佐

私は生徒会の一員として、城南高校の創立150周年を振り返るスライドショーのナレーションを担当しました。



これまで城南高校の歴史について深く知る機会はありませんでしたが、スライドショーに流れる写真を1枚1枚見ていく中で、現代とのギャップで驚いたり、城南高校が形作られていく過程を知ることができたりと、多くの発見と学びがありました。特に印象に残っているのは、当時の修学旅行の写真です。現在とは異なり、自分たちの足で大地を踏みしめながら移動する旅だったと知り、その大変さと同時に、仲間と目的地を目指すなかで得られる、達成感ゆえの思い出の深さがあったのだらうなと感じました。便利な現代の修学旅行とはまた違った魅力があったのだと思います。

今回の経験を通して、長い歴史の中で多くの先輩方が学校を築き上げてきたからこそ、今の私達が充実した学校生活を送れているのだと実感し、さらに城南高校への愛着が湧くとてもいい機会となりました。

(吟詠剣詩舞同好会)

山崎 悠加

私は今回、徳島県立城南高等学校の創立150年を祝う式典に在校生かつパフォーマーとして参加しました。



まず私が演者として一番苦労したことは、大きな式典の舞台に立つうえで「いかに緊張を観客に伝えず、楽しんでいただくか」という点です。私は今回、メインの活動とは異なる「吟(ぎん)」の担当として出場しました。吟は、演者として自らの声を魅せると同時に、舞をより華やかに引き立てる重要な役割を担います。「吟が安定していなければ舞も安定しない、よって観客も安心して見ることはできない」——。そう自分に言い聞かせ、責任の重さに不安を抱えつつも本番を迎えました。舞台に立ってからは不思議と緊張も解け、結果として今までにないくらいうまくできて、やり遂げることができました。

次に在校生として感じたことは、楽しさと同時に「150年間紡いできた歴史を終わらせたくない」という思いでした。未来の世代も含め、世界中の人が笑えて、教育を受けられて、お互いに認め合える、そんな世界を実現させるために、「今、自分ができることは何か」を考えて行動を起こしていきたいと思っています。

(吹奏楽部)

高木 凜子

私たち吹奏楽部は、創立150周年記念式典で部活動コラボショーと校歌3部作斉唱の伴奏をさせていただきました。このような機会をいただき、本当にありがとうございました。記念すべき節目の年に城南高校に在籍できていることをとても嬉しく思います。そして、城南高校の歴史と伝統を今日まで受け継いでくださった先輩方には感謝の気持ちでいっぱいです。

城南高校の歴史を振り返りながら演奏した「Amazing Grace」は会場の厳かな雰囲気も相まって良い演奏になり、クライマックスには城南高校の未来を照らす明るい演奏を届けることができました。他の部活動とのコラボはあまりなく不安でしたが、「最高のパフォーマンスを届けたい!」という熱い想いがさまざまな部を繋げてくれたような気がします。また、校歌3部作斉唱のときに体育館に響き渡っていた城南生の力強い歌声は、一生忘れることができません。

「ジョウナンらしく、あたらしく。」この言葉のようにこれからも精進しますので、応援宜しくお願いいたします。



(ダンス同好会)

鎌田 実優

城南高校創立150周年という歴史的な節目に、ダンス同好会のキャプテンとしてパフォーマンスに携われたことを、誇りに思います。

準備期間中、式典を成功させこの伝統を守る、という重責と不安に何度も押しつぶされそうになりました。アニバーサリーパフォーマンス全体のイメージに貢献しつつ、いかに自分たちの個性を出すか、衣装や振付の一つ一つを何度も練り直し、試行錯誤を繰り返す毎日はとても大変でした。

ダンスは表現や楽曲のジャンルによって、どんな色にも染まります。そのため、今回は扱う曲数やジャンルの多さが大きな壁でした。自分たちが表現したいことをイメージし、指先や表情まで丁寧に合わせることで乗り越えました。

仲間と心をつなげて表現を追求した時間は、私たちを大きく成長させてくれた何よりの経験です。この素晴らしい年に在校生としていられた幸せを糧に、これからも新しい歴史を繋いでいきたいです。



(書道部)

加納 優

創立150周年という記念すべき年に、書道部として式典に臨めたことを大変誇りに思います。記念誌のタイトル『城南の青春』や寮歌の巻頭言の揮毫という大役をはじめ、式典での吟詠剣詩舞同好会との「詩吟流星」でのコラボ、そしてフィナーレの書道パフォーマンスと、日々培ってきた技術と想いを表現する多くの機会をいただき、心より光栄に思います。

特に第3部の部活動コラボパフォーマンスでは、他の部活動の仲間と息を合わせ、互いに刺激を受け合う中で、それぞれのパフォーマンスを高めることができました。

しかし、どの役目も重責であり、本番を迎えるまではプレッシャーに押しつぶされそうで、心に余裕をなくしてしまうこともありました。それだけに、無事にやり遂げられた瞬間は、大きな達成感とともに、安堵感に包まれました。

先輩方が紡いでこられた150年という歴史の節目に立ち会い、仲間と一つのものを創り上げる喜びを得られたことは、一生の財産です。この貴重な経験を糧に、これからも城南生として、書道部員として、新たな歴史の1ページを刻めるように努力を続けていきたいと思っています。





犬伏 友美 先生

をもとに資料を集め、内容を整理しました。特に、140周年記念誌や「城南の青春」などの刊行物は大変参考となり、それらを基にしなが時代の流れが分かる形で再構成しています。

資料によって年号や表記が異なる部分もありましたが、可能な限り照合を重ね、信頼できる形で掲載できるよう努めました。

構成では、150年の歩みを見通せるよう年表と写真を中心にした紙面づくりを意識しました。文章はできるだけ簡潔にすることで、視覚的に歴史の流れを感じてもらえるよう工夫しています。各時代の校舎や学校行事、生徒の活動の様子などを写真とともに紹介し、当時の学校生活や時代背景が伝わるようにしました。

また、記念誌には校歌の音源を聴くことができるQRコードも掲載させていただき、紙面だけでなく記憶を呼び起こすきっかけとなるような内容としています。卒業生の方々にとっては、それぞれの時代の思い出を振り返

記念誌制作を振り返って

創立150周年を記念して制作された記念誌は、城南高校の長い歩みを振り返るとともに、その歴史を次の世代へ伝えることを目的として編纂しました。

制作にあたっては、過去の周年記念誌や学校資料、写真など

る1冊となり、在校生にとっては学校の歴史を知る機会となればと願っています。

150年の歴史の中で、多くの先輩方が城南高校を支え、その歩みを積み重ねてこられました。そうした歴史を知ること、改めて本校がこれまで築いてきた価値の重みを実感しました。

本記念誌が、城南高校の歴史を振り返り、これから未来へと思いをつなぐ一助となれば幸いです。



記念誌へのアクセスはこちらから



記念誌へのアクセス方法

徳島県立城南高等学校

ログイン

ログインID

パスワード

☐ ログイン状態を維持する。

☒ ログイン

パスワードを忘れた場合。



城南高校家庭クラブ >

松柏会 (PTA)

150周年関係卒業生専用ページ

訪問者数(since2025/04/01)

累計 337,124 人

本日 29 人

昨日 1,096 人



150周年記念誌

150周年記念誌をご覧ください。

先輩方の歩みと想いを未来へつなぐ記念誌を卒業生に公開いたします。母校の歴史とともに「城南の青春」を分かち合っていたいただければ幸いです。

城南高校創立150周年記念誌_見開き.pdf

城南高校創立 150 周年記念誌
見開き PDF をクリック

QRコードを読み取って、
IDとパスワードを入力
ログインをクリック

城南高校のホームページ左のホームの下、
150周年関係卒業生専用ページをクリック

【記念誌のページへのアクセス方法】

城南高校HPの卒業生専用ページへのアクセス方法は以下に示します。

- ① HP右上のログイン（もしくはホームの一番下のログイン）をクリック
- ② ログインID **ababai150** パスワード **1875jonan**
- ③ 左下に専用ページのタブ（150周年事業卒業生専用ページ）が出現するので、クリック



千田奈津代 先生
(昭和62年卒)

記念品に込められた思い — 生徒の声から生まれた「150周年クリップ」 —

150周年記念式典にあわせて、生徒の皆さんに配られた記念品は、日常の学習でも使えるブッククリップでした。この記念品は、生徒の声をもとに生まれたものです。

当初、実行委員会でもさまざまに検討されていましたが、「生徒が本当に使いたいと思うものにしたい」との思いから、生徒へのアンケートが行われました。クリアファイルやボールペンなどいくつかの候補の中で、新たに加えられたブッククリップに多くの支持が集まり、記念品として制作されることになりました。

デザインには150周年記念ロゴが使用され、コスト面も工夫しながら制作が進められました。完成したクリップは、参考書や問題集を留めるために使うなど、生徒の日常の学習の中で活用されています。

生徒の声をきっかけに生まれたこのクリップは、150周年の思い出とともに、これからも学校生活の中で使われ続けていきます。

生徒の皆さんの
声から生まれました



150周年記念品



白桃 里美
(平成17年卒)

創立150周年に寄せて — デザインを通じて母校とつながる喜び

この度、創立150周年という大きな節目を迎え、同窓生の先輩からパンフレット制作のご依頼をいただきました。

卒業生として、また1人のデザイナーとして母校に貢献できる喜びを感じると同時に、その重責に身が引き締まる思いでお引き受けいたしました。

制作にあたっては、パンフレットに留まらず、ロゴマークの制作やクラウドファンディング、メッセージ動画の配信など、新たな試みもご提案させていただきました。

記念事業の軸は「子どもたちに感動体験を届けたい」という先輩方の熱い想いです。

クラウドファンディングでは、多くの地域の皆さまを巻き込む大きな輪となりました。

その結果誕生した「ジャンプアップ基金」が、在校生の留学支援として形になったことは、この上ない喜びです。

ロゴマークには、城南富士(勢見山)を象徴的に据え、その上に、城南から全国、そして世界へと羽ばたき、輝きながら活躍していくこれからの生徒たちの姿を表現いたしました。

また、温かなエールや校歌にも登場する若葉のイメージを「ハート型」に重ね、見守る想いを込めております。

さらに、城南富士の「緑色」、ファイヤーストームの炎を象徴する「オレンジ色」、そして校歌にうたわれる若葉の明るい「黄緑色」の3色を、150周年を象徴するカラーとして設定いたしました。

街中でこのロゴを目にするたび、母校が日常の中に溶け込んでいることを実感し、胸が熱くなります。

創立150周年は、私自身が母校との絆を見つめ直す貴重な機会となりました。

皆さまにおかれましても、世代を超えて母校を身近に感じるきっかけとなり、お1人お1人の母校への想いが次の世代を支える力へとつながっていくことを心より願っております。



ロゴデザイン

後援会活動（令和 6～7 年度実績等）について



城南高等学校後援会長 大和 史郎（昭和56年卒）

旧徳中・城南高等学校同窓会の皆さまにおかれましては、益々ご健勝にてご活躍のこととお喜び申し上げます。また、日頃より後援会活動に格別のご理解、ご支援をいただき、心から感謝申し上げます。

後援会では、皆さまからの寄付金をもとに、毎年度母校のご希望に沿った形で教育の充実や部活動の下支えのための支援を行っております。

令和 6～7 年度については、母校の創立150周年記念事業実行委員会に参画し、一体となって記念事業のための募金活動を行いました。後援会各支部（阿波銀行、徳島大正銀行、徳島県庁、日亜化学工業、徳島新聞社）からの計 87 万円の寄付金をはじめ、数多くの同窓生の皆さまからご

協力をいただき、厚くお礼を申し上げます。また、令和 7 年度においては後援会の繰越金からも別途 250 万円を創立 150 周年記念事業の寄付に充当させていただいたことをご報告いたします。

皆さまからの寄付金は、創立150周年記念の各種事業の推進、なかでも「城南生ジャンプアップ基金」の創設を通じて、「未来を拓く城南生の育成（海外留学・研修の補助等）」や「部活動を意欲的に取り組める環境づくり（競技備品の購入等）」の支援に役立てられます。

創立150周年という大きな節目は越えましたが、後援会は新年度以降も母校の発展と城南生の成長を少しでもサポートできるよう、継続的な活動をしていきたいと思っております。皆さまには後援会活動へのなお一層のご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

旧徳中・城南高等学校創立150周年記念事業会計報告

城南高校に思いを寄せてくださった企業・団体様 81件
個人の皆様 1,891件、温かいご支援ありがとうございました。
「ジョウナンらしく、あたらしく。」これからも城南生を
見守り応援お願いします。

収入の部	収入額 (単位千円)
寄付金	22,489
寄付金取扱手数料	▲ 479
生徒・教職員協力金	1,470
準備金・預金利息	2,515
収入額 計	25,995
支出の部	支出額 (単位千円)
式典開催・記念誌経費	2,693
広報経費	2,835
寄付金募集・事務局費	3,379
準備金戻入・予備費	2,588
支出額 計	11,495

基金積立額 1450万円

城南生ジャンプアップ基金事業10年計画										
執行計画	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035
(助成金)海外挑戦 ✈ 海外留学・研修支援 世界へ羽ばたく勇気を後押し	30万 ×									
海外交流 🌐 海外高校の受入交流や研究 WEBセッションを活発化	20万									
(助成金)部活動バウンスアップ 🔥 学校全体に部活動のエネルギーを波及させる！	130万									

※各年度毎に、同窓会・後援会・松柏会への事業報告を行います。お楽しみに！！

城南の未来を創る「志」の結集 150周年記念事業実行委員会 会計担当 小濱由美子(昭和61年卒)(城南高校 事務課長)

創立150周年という歴史的な節目に、私は会計担当として、この記念事業が「何もない更地」から卒業生の皆様の熱い想いによって形になっていく過程を、最も近い場所で見つめてきました。

予算執行にあたり、同窓会綱島前事務局長(昭和55年卒)さんに助けていただき常に自問自答してきたのは、「皆様の善意を1円の無駄もなく、いかに在校生と未来の城南生のために役立てるか」ということです。

実務は、必要経費の執行はもとより、懸垂幕の発注や寄付企業様へのお礼カレンダー送付、記念Tシャツ販売など多岐にわたりました。特にクラウドファンディング

では、企画制作の白桃里美(平成17年卒)さん、綱島前事務局長さんと城南高校を想う多様な支援の形に触れるとともに、寄付金を集計する数字の一つひとつに、卒業生の皆様の母校を想う「体温」を感じる日々でした。

皆様の熱意の結果、全事業終了後に1,450万円を「城南生ジャンプアップ基金」として次世代へ引き継ぐことができました。基金設置運営要綱等を新たに制定し、皆様から預かった「志」は、確実に後輩たちの未来へとつながりました。応援して下さったすべての方々に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。



退任にあたって

前校長 佐山 哲雄

退任にあたって、同窓会の皆様にご挨拶を申し上げます。

創立150周年を迎えた歴史と伝統に輝く城南高校が、最後の勤務校となりましたこと大変光栄であり、思い出深い2年間となりました。また、「ジョウナンらしく、あたらしく。」をキャッチフレーズとした創立150周年記念事業の実施にあたっては、同窓会の皆様から多大なご支援とご協力をいただきありがとうございました。昨年の11月13日に開催しました記念式典につきましても記憶に残る事業とすることができました。なお、皆様からのご支援により創設しました「城南生ジャンプアップ基金」につきましては、海外研修や部活動の一層の充実活用してまいります。

さて、38年間の教員人生では、生徒たちの夢や志の実現に向け、学校目標の推進や課題の改善に取り組んでまいりました。特に、城南高校に赴任してからの2年間は、城南高校の目指すべき位置をしっかりと見据え、学校運営に取り組みました。同窓会をはじめ後援会や松柏会の皆様のご協力により、「自主自立」の校風と「文武両道」の精神を発揚できたこと、そして継承できたことに、心より感謝申し上げます。城南高校での2年間は、教員人生の集大成となりました。

同窓会活動におきましては、酒池会長様をはじめとした本部役員の皆様、関東支部や近畿支部の役員の皆様にご大変お世話になりました。常に、母校や生徒、教職員のことを考えてくださり、物心

両面でご支援をいただきましたこと、本校教育の充実、発展の原動力となりました。同窓会の皆様からお話を伺うたびに、城南高校に対する強い想いが伝わってきました。また、創立150周年の同窓会名簿に寄稿させていただく機会もいただき、微力ながら同窓会活動に貢献することができました。

城南高校に赴任しました令和6年度は、スーパーサイエンスハイスクール(SSH)事業が経過措置の2年目を迎えた年度であり、新たなステージとなる先導的改革期の新規採択を目指して工夫改善に取り組みしました。残念ながら、予算措置のない認定枠での採択とはなってしまいましたが、徳島文理大学や台湾国立竹南高級中学と連携協定を締結したことで、令和7年度は自走化に向けて高大連携や国際交流の一層の充実を図ることができました。

最後となる第3学期の終業式では、「これからの時代」をテーマとして話をしました。AIにできない新しい価値創造やイノベーションの創出が求められている「これからの時代」に必要なことは、「間違ふことや失敗を恐れずに、人と違うことこそを大事にすること」、そして「自分の殻を破り、新たなことに挑戦して、これからの新しい時代を生きていく力を身につけること」であると話をしました。城南生には、「未来を切り拓くイノベーター(革新者)」としての活躍を期待しています。

最後になりましたが、同窓会のご発展、皆様の益々のご活躍、ご健勝と創立150周年を迎えた城南高校のさらなる躍進を祈念申し上げ、挨拶いたします。



着任にあたって

新校長 阿部 憲市(昭和62年卒)

本年度より城南高校の校長として着任いたしました阿部憲市と申します。どうぞよろしくお願いいたします。私にとりまして城南高校は母校でありながら、これまで教壇に立つ機会に恵まれませんでした。

この度、願いが叶って勤務させていただくこととなり、創立150年という歴史を次の世代に繋いでいくとともに、新しい城南の歴史を築いていく使命を担い、その責任の重さに身の引き締まる思いです。

私は昭和59年4月に入学し、翌年には後藤善猛校長のもと創立110周年記念式典が大々的に挙行されました。本校の卒業生で世界的作曲家でもある三木稔氏の記念講演が催され、当時改修を行っていた校門には、日本を代表する彫刻家の流政之氏が制作した「ABABA」像が立てられました。校門改修工事完了後には、HR担任だった中野公彦先生やクラスメイトと、通り初めをしたことを今も記憶しております。

それから39年——再び城南の門をくぐると、生徒が着る学生服はブレザーに変わり、平成4年に敷地西側に建てられた体育館には、今年度より熱中症対策の一助となる空調設備が整えられました。校舎は、平成22年から美しく機能的な建物に建て替えられ、教室とは別に生徒が自由に使える自習室などが城南高校後援会のご支援によって完備されており、一見、初めての学校にきたような錯覚に陥ります。さらに、ソフト面では平成15年からスーパー

サイエンスハイスクール(SSH)の指定を受けて県内の理数系教育を牽引してきましたし、一昨年度からは台湾国立竹南高級中学との交流が始まる等、海外研修制度も整えられています。一方で、数多くの「変わらぬこと」もあります。「自主自立」の校風や「文武両道」の精神は、城南生の拠所として受け継がれていますし、城南祭のフィナーレを飾るF5の炎は、今もなお燃え続けています。また、部活動も変わらず盛んであり、校長室には体育部の優勝旗が8本立ち並んでいますし、文化部も各分野で全国大会へ出場する機会を得ています。このような中、昨年度は同窓会の皆様方のご支援と、佐山前校長のご尽力により、創立150周年記念式典が盛大に挙行されました。在籍する全生徒、教職員にとりまして大変喜ばしく、誇りに感じております。誠にありがとうございました。今年も4月には270名の新入生を迎え入れ、全校生徒808名で151年目となる新たなスタートを切ったところです。歴代の校長先生方が、地域の期待に応えながら質の高い教育の提供と快適な教育環境の構築に努めてこられたご功勞に敬服するばかりですが、今後も、本校のスクールミッションである「未来を切り拓くイノベーターの育成」と「高い志を掲げて生き生きと輝く生徒を育てる」という教育目標のもと、「進取の精神」をもって教育活動を続けて参りたいと考えております。

結びに、同窓会の皆様からの引き続きのご支援とご協力をお願い申し上げますとともに、会員の皆様の益々のご健康とご多幸をお祈りして着任のご挨拶いたします。

2025年度 渦の音クラブ (関東支部) の活動報告

— 母校創立150周年をともに祝う歩み —

母校150年の歩みとともに

旧制徳島中学校、城南高等学校は創立150周年という大きな節目を迎えました。1世紀半にわたる歴史のなかで、多くの卒業生が全国、さらには世界へと羽ばたき、各分野で活躍しています。その背景には、世代を超えて受け継がれてきた同窓生同士の確かなつながりがあります。関東でその交流を支えているのが、同窓会関東支部「渦の音クラブ」です。創立100周年記念事業を契機に結成されて以来、半世紀にわたり世代を超えた交流を重ね、母校と卒業生を結ぶ場として歩みを続けてきました。

150周年を迎えた昨年は、関東で積み重ねてきた交流の意義を会員一同があらためて実感する節目となりました。その一環として2025年度「渦の音クラブの集い」を開催しました。会場は四谷のホテルウィングインターナショナルプレミアム東京四谷。昭和32年卒業から令和6年卒業まで約50名が参加し、幅広い世代が集う、再会と新たな出会いに満ちたひとときとなりました。

会では賀川会長の活動報告に続き、佐山校長先生、同窓会の酒池会長より150周年記念事業や母校の近況が紹介されました。歴史を振り返るとともに、次の時代へ向けた取り組みにも触れられ、参加者にとって母校への思いを新たにできる機会となりました。徳島県東京本部からの報告や東京徳島県人会の案内もあり、地域とのつながりの広がりも感じられました。さらに、令和6年卒の泰地陽詩さんがオリンピックへの挑戦を語り、平成7年卒の石田伸二さんから力強いメッセージが届けられるなど、世



代を超えて応援し合う関係の大切さもあらためて示されました。

「渦の音クラブの集い」は、単なる懇親の場ではありません。母校の歴史を共有し、それぞれの歩みを語り合いながら未来へとつなぐ場です。会社員、公務員、起業家、学生、文化人、アスリートなど多彩な卒業生が集い、新たな交流と支え合いが生まれています。

150周年という節目を経て、次の50年、100年を築いていくのは今の世代です。渦の音クラブは、これからも母校とともに歩み続けます。

公式HP:<http://uzunooto.jp/>

公式ブログ:<http://uzunootoclub.seesaa.net/>

公式Facebook:<https://www.facebook.com/UzunootoClub>

近畿支部 (城南FS会) の開催

城南高校を卒業して近畿に在住するみなさんと共に歩む「城南FS会：近畿支部」は、今後の方向として、城南FS会を毎年10月第3土曜日12時より、中央電気倶楽部で開催予定を決めました。

また、昨年の創立150周年記念式典に事務局が参加させていただき、在校生のみなさん、先生、職員及び参加同窓会関係者と式典を盛り上げました。

式典では、在校生のみなさんが主体的に企画構成して運営し、150年の伝統を魅せてくれました。とりわけ、式典最後に全員で合唱した3校歌は歴史を実感するものでした。

開校記念日の歌→旧徳島中学校校歌→城南高校校歌と連続の合唱でした。

校歌歴史が150年の歴史そのものであり、我々が受け継いできた伝統がしっかりと実感できる校歌斉唱でした。



ファイヤーストームで様々な歌を合唱してきた歴史もFSで受け継がれている面と新しく築く校風の進化があると思います。

我々団塊世代のFSでは、旧制中学校寮歌等を歌い進学への気持ちを鼓舞させるものがあり、級友のライブ/レタちとの向上を誓う集いだったように思います。

現在の城南高校は社会状況の変化の波にもまれながらも、絶え間なく常に前進を継続し文武両道の道を進化させていこうとしています。

近畿支部である「城南FS会」もその力を基に、会員減少の中ですが、みなさんと親交懇親で徳島と近畿を結び付けています。

総会懇親の場も、高齢化等に伴いできる限り参加しやすい価格の場所を求めて、この間は中央電気倶楽部にて開催しています。

昼食会懇親の中で、先輩後輩が様々な話をし、また他校の同窓会幹部の方も来ていただき情報交換と親交を深めています。他校の伝統も懇親の中で聞くことで、徳島の良さや人との繋がりの大事さを知ることも多く、城南FS会も現代的進化をしていると感じています。

2026年の城南FS会は、10月17日(土) 12時より中央電気倶楽部にて開催します。

同封の案内を参照下さい。会費は6千円で食事は基本ビーフシチューです。

今後も、みなさんと共に城南FS会を継続して、近畿から城南高校の生徒達を応援し支援していこうと思っています。

今年も楽しく集いたいと思います。ご参集をお待ちしております!

城南FS会(近畿支部) 事務局 糸田川 廣志(昭和42年卒)

学年同窓会開催報告

平成7年卒学年同窓会の開催報告

令和7年度代表幹事 海出 雄市

城南高校同窓生の皆様におかれましてはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。平成7年卒の海出と申します。城南高校創立150周年の記念すべき年に、卒業30年後の私達が旧徳中・城南高校同窓会の幹事学年担当に決まったことで、同窓会成功を志す世話役5名とともに、1年かけて本部と学年の両面で準備を進めていくことになりました。

学年同窓会では同級生474名へどのように案内するかを考えました。卒業クラス名簿を頼りに、元生徒会長が8年前に開催した同窓会ラインで210名、同窓会名簿等で230名に郵送案内し、その他協力もあり442名へ案内することができました。その後は公式Instagramを作成し、ネットでの出欠報告としたところ、恩師と同級生合わせて93名の出席に繋がりました。

令和7年8月10日。午前から阿波観光ホテルで旧徳中・城南高校同窓会総会と講演会の運営を遂行し、懇親会では平成7年卒の特性を活かしたボディコンバット健康体操で会場全体を盛り上げ、幹事学年の役目を果たすことができました。同日夕刻のパークウエスタンでの学年同窓会では、全体写真を撮影して乾杯した後は、先生達の思い出座談会を行うなど、30年ぶりの再会に懐かしみ、時間が足りないほど大いに盛り上がりしました。

開催後は、「ありがとう」、「来て良かった」と同級生から感謝

の声を多数いただきました。私自身も恩師への恩返しができたと共に、皆から元気と希望をもらいました。また同窓会は再会があれば、新たな出会いがあることも学びました。数年後の再会を楽しみとし、私達の明るい未来へ向けて、今をしっかりと生きていきたいと思います。

素晴らしい世話役らと同窓会活動ができたことを誇りに思い、平成7年卒の同級生の協力に感謝するとともに、貴重な機会と役目をいただいた旧徳中・城南高校同窓会にお礼申し上げ、報告とさせていただきます。ありがとうございました。



「城南39会同窓会」開催記

清原 真弓

今回、本同窓会は、徳島、東京の2ヶ所同時開催の運びとなりました。

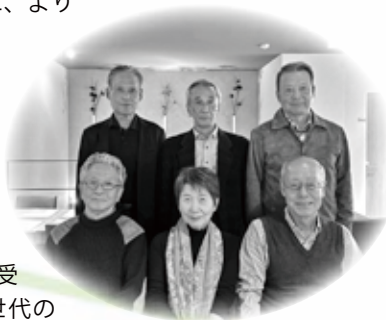
東京では、男性5名、女性1名、計5名の出席者がありました。

徳島は、令和7年（2025年）11月16日（日）、午前11時より、ホテル「ザ・グランドパレス徳島」にて、県内外より、男性27名、女性8名、計35名の出席者を得て賑やかに開始されました。

前回、令和5年から、日数で距離感も近く、重ねて、すでに手許に届けられた「城南富士八号目」の誌面から、各自の近況も衆知のものとなり、会話もスムーズに、より磊落なものになりました。

話題は、罹患した病歴の披露から、いつしか鬼籍に入れられた多くの級友の名が出てきました。故人一人一人の思い出は、同時に、同級生一人一人の青春の軌跡であるのでした。

私達は今、生成AIの洗礼を老身に受け、2006年以降のα（アルファ）世代の



子供達の視界にいます。しかし、同窓会の輪の中で、お互いの容姿の中に、自分の姿を見、自分の人生を見ます。夢のような時間に、ビンゴゲームをし、ジャンケン大会をし、笑い涙の喧騒の後は、全員起立の大合唱となりました。曲目は「城南39会」恒例のもので、最初は勿論、「城南高校校歌」、そして、「高校三年生」へと続きました。木造校舎の「赤い夕陽」は今も、みんなの心でリズムを刻んでいます。



城南39会 同窓会 令和7年11月16日 於ザ・グランドパレス

昭和47年卒業生同窓会

宮住 勝彦

令和5年11月18日に開催された前回の同窓会で今後は2年ごとに開催することとなり、ちょうど2年後の令和7年11月15日に前回と同じホテル「ザ・グランドパレス」にて同窓会を開催しました。準備は前回同様毎月会食しているミニ同窓会「城南会」のメンバーが担当し、司会も毎年女子会をしている「乙女の会」の皆さんにお願いしました。今回は、経費節減のためはがきによる案内を極

力減らし、主に電子メールによる案内に変更しました。いろいろと試行錯誤もありましたが、今後は電子メールによる案内をメインにしていきたいと思っています。前回の開催から2年後という事もあってか、前回の75名からは減ったものの48名が出席しました。中には、鹿児島から車で駆けつけてくれた元気な女性や東京等遠路から出席してくれたメンバーもいて、同窓会の団結力の強

さに驚かされました。

受付では、名前を言われなくても「あっ、〇〇さん」とわかる人もいれば名前を言われても面影がない人もおり、卒業してから時間の長さを実感しました。

出席者全員の受付が終わると別室で集合写真を撮影し、その後開会に先立ち亡くなられた方々に黙とうを捧げました。すでに卒業生399名のうち30数名がお亡くなりになっています。中には同窓会出席を楽しみにしてしながら直前に亡くなられた方もおり、正面のスクリーンに映し出された卒業アルバムの写真とともに故人を偲びました。

学年代表の挨拶や幹事の紹介の後、会食になりました。ホテルのおいしい料理とお酒に舌鼓を打ちつつ同じクラスや部活のメンバーが集まり、和気あいあいと語り合う情景は全員が50数年前にタイムスリップしたようでした。人それぞれ歩んできた道は違っても、高校の3年間同じ場所でともに過ごした時間は何物にも代えがたい貴重な宝物だと実感しました。会場のスクリーンにはファイアーストームや文化祭・体育祭、修学旅行など青春を謳歌したところの写真が映し出され、そのころに流行した懐かしい音楽が流れて本当に高校生に返ったような雰囲気に包まれました。

最後に全員で校歌を斉唱し、中締めには万歳三唱ならぬ「城南、チャチャチャ」を三唱して予定の3時間が瞬く間に過ぎていきました。また2年後の元気な再会を誓い合って散会となりました。

我々が生きてきた昭和・平成の時代は学生紛争や数度のオイル



城南高校昭和47年卒同窓会 令和7年11月15日 於ザ・グランドパレス

ショックなどもありましたが、高度成長経済で日本がそれなりに輝いていた時代でした。そんな過去を振り返りつつ共に青春時代を過ごした仲間と同じ会場で語り合えることは何よりうれしいことだと実感しました。次回は大半のメンバーが後期高齢者目となりますが、今回の出席者が一人も欠けることなく、また今回様々な事情で出席できなかった仲間が一人でも多く参加してくれることを祈念しています。最後に、幹事の連絡先を掲載しておきますので、同窓会に参加したいという方がいらっしゃいましたらご連絡ください。

増田 清造 メールアドレス: derunavi@yahoo.co.jp

宮住 勝彦 メールアドレス: miyazumi2828@mb.pikara.ne.jp

愉快的城南65歳同窓会(昭和52年卒)

石井(旧姓:笠井)葉子

令和6年7月14日(日)ホテル「ザ・グランドパレス」で開催された同窓会に、北海道をはじめ遠方からも駆けつけた同級生が集まりました。これまでも、還暦の集まり(20人程度)や、東京や徳島でプチ同窓会がありました。しかし、65歳になり、それぞれが定年や定年延長終了を迎え、人生の次のステージに進んだ時期に広く声をかけて集まることにしました。昭和52年度の卒業生は525人(男子268、女子257)と大所帯でしたが、2020年の同窓会名簿では既に20数名が亡くなっています。彼らの思いがけない訃報を聞いた際に驚き、彼らを思いだし、68名の出席者が生きて会えた喜びをわかち合いました。

“65歳同窓会”の幹事は13人。令和5年の秋から徳島で月に一度の幹事会を開き、着々と開催準備が進められました。それぞれの幹事から手探りで参加者を広げ、LINEやGooglegroupsを利用しました。その甲斐があつて多数の出席となりました。

当日は、最初に全員の写真撮影をして、和服姿の蔵田会長の開会宣言、前田(旧姓:清村)さんが母校の現状、城南同窓会・後援会の紹介をして、山高(旧姓:原田)さんの乾杯の下、会食歓談に入りました。卒業以来、初めて会う同級生も多く、あちらこちらで再会の喜びの音があがりました。会場前のスクリーンには、高校時代の部活動やクラス写真が投影され、一気にあの頃に戻りました。



そして、盛り上がった所で、全員が30秒スピーチを行い、高校卒業後の約50年の人生を語りました。仕事を退職して趣味に打ち込む人、親の介護や孫の世話で忙しい人、親の会社を継いだ人、仕事を95歳まで頑張らなきゃという人、退職後に新しい仕事につき生きがいを感じている人、ミカン農園を始めた人、今までの仕事をまだまだ続ける人、仕事をそろそろ辞めようかなという人…本当に様々な人生が垣間見えました。

同級生の外観も、高校時代と激変してしまった人、面影を残している人、高校時代とあまり変わらない人など様々でした。しかし、今を生き生きと過ごしている様子がわかりました。最後に校歌や、城南健児の雄叫びを歌いました。元FS実行委員長下村君のエールを全員が受け、左倉幹事長の一本締めで全員の健康と次の再会を願いました。こうして、3時間の同窓会は、用意された美味しい料理を食べる暇もないくらい、友と語り合い、笑顔と笑い声が絶えない最高の時間となりました。

私達が在校時、城南高校は創立100周年を迎えました。そして、令和7年は150周年を迎えます。この伝統ある母校で、同じ青春の時間を刻んだ私達。この大きな揺り籠のような母校が、いつまでも存続することを祈らずにはいられません。

さて、次の同窓会は70歳でしょうか? より多くの同級生と、元気にその日を迎えたいと思います。その日まで、プチ同窓会がそれぞれの場所で開かれると思いますので、今回欠席だった昭和52年度卒業の皆様もぜひ一緒にしましょう。

最後に、ヘレン・ケラーの言葉を記します。「友と共に暗の中を歩く方が、一人で光の中を歩くよりいい」とえ闇の中にいても、誰かと一緒に過ごせば素晴らしい経験になることを伝えていきます。これから私達は年を重ね、人生の終盤に入ってゆきます。それは誰でも、初めての経験で不安です。その時に慰め、励まし合える友と一緒に人生を歩むことは、何と心強いことでしょう。

昭和53年卒業生同窓会

大井 倫夫

平成22年（2010年）に前回の昭和53年卒業生同窓会を開催してから、あっという間に15年が経った令和7年（2025年）3月9日（日）にホテル「ザ・グランドパレス」に於いて第3回学年同窓会を開催いたしました。

2025年は母校の創立150周年の記念すべき年でもあります。

本来なら5年前の60歳の還暦の年に開催をするはずでしたが、ご存知の通り新型コロナウイルス感染症における緊急事態宣言が発令されたため、開催直前にやむなく中止といたしました。

コロナ感染症も第5類感染症に移行されようやくの開催です。幹事グループは当初70名位の参加人数を考えていましたが、久しぶりの開催ということで、友が友を呼び、また、LINEの連絡網を使った案内が広まり最終的に90名もの参加者となりました。

当日は、県外からの出席も多く中には卒業以来47年ぶりに徳島に帰って来た友もありました。変わらない者、「誰？」といった者、久々の再会で開宴前から会場のあちらこちらでは話の輪ができていました。

会の中盤には映画部の部長、渾身の「嬉し・恥ずかし」の思い出の映像が上映され、笑いと喜びで、すっかり心は城南高生に戻っていました。

只、映像に移っていた恩師や、すでに15名の同級生がこの世を去っており、御霊に献杯をして偲びました。

寂しさを一掃してくれたのは飛び入りで披露してくれたオペラの独唱や、華やかな日舞でした。皆さん、すごい得意技を持っています。本当にありがとうございました。

最後は元FS実行委員長の巻頭言のあと全員で「城南健児の雄叫び」を歌って締めくくり、また元気に再会をする約束をして閉宴となりました。

今回の同窓会では改めて学年のグループLINEを作りましたが出席者のほとんどがLINEに参加してくれました。終わってから1週間くらいは当日のさまざまな写真等がグループLINEにアップされ、賑わっていました。

次回開催はまた5年後か、否、3年後の「卒業50周年記念の会」を開催できたらなと思っています。



「コロナウイルスと3年間を共にした第74回城南卒業生の初同窓会」

尾崎 莉菜

母校を令和4年に卒業した我々は、令和6年1月3日に卒業後初の同窓会を催しました。思い返せばコロナウイルスによる制限を全く受けぬ催しは、我々にとってこの同窓会が唯一でありました。「コロナウイルスに邪魔をされることのない行事を」という我々がかねてから待ち望んでいたものを卒業後ようやく体現することができました。

SNSが普及し、容易に連絡が取りあえる現代社会において、多くの卒業生が旧友と実際に会い、語り合う機会を重んじたがゆえのことでしょうか。当同窓会には279名の第74回卒業生のうち130名

程が集いました。コロナウイルスと共にあった高校生活での休校や分散登校の経験が、我々に対面の尊さを説いたのかもしれませんが、そこから得られたものも確かにあったようです。大勢の旧友を募ることができた今回の同窓会もコロナ禍での経験がもたらしたものであるようにも感じます。

また今回、卒業生に加えましてお世話になった先生方にもお越しいただくことが叶いました。コロナ禍において、我々に「最大限青春を満喫させよう」とご尽力いただいた先生方には頭が上がりません。我々卒業生一同、恩師に再会できたことを心から喜ばしく感じております。叶うことならば再度、同窓会という名の元で感謝の意をお伝えしたいというのが我々の総意であります。

当同窓会は卒業後たった2年後の開催でしたが、2年間というのは人が変わってしまうには十分な時間でもあったようです。記憶の中の旧友とお酒を飲める齢になった目前の人物とのギャップに驚嘆や物寂しさを感じることもありました。しかしその一方で、変わらぬ笑顔に心癒されたことも確かでありました。5年後かあるいは10年後か、皆と再会し、複雑でもあり何とも言えぬこの感情をまた感じることができると信じ、今はただ各々の道を誠心誠意進んでいきたいと思っています。



【同窓会開催報告について】

同窓会開催報告につきましては、編集委員会で内容を確認の上、掲載させていただいております。あらかじめご理解いただきますようお願いいたします。

おめでとうございます

令和 6 年 春の叙勲 受章者

加藤 光昭 (昭和36年卒) 瑞宝中綬章 教育研究功労
大津 靖弘 (昭和49年卒) 瑞宝小綬章 教育功労

令和 6 年 秋の叙勲 受章者

上浦 喜代志 (昭和35年卒) 旭日単光章 援護功労
天羽 康夫 (昭和37年卒) 瑞宝中綬章 教育研究功労
江崎 光男 (昭和37年卒) 瑞宝中綬章 教育研究功労
坂本 功 (昭和37年卒) 瑞宝中綬章 教育研究功労
田村 禎通 (昭和40年卒) 瑞宝中綬章 保健衛生功労
武市 修一 (昭和42年卒) 瑞宝小綬章 地方自治功労
桑村 公三 (昭和44年卒) 瑞宝小綬章 地方自治功労
齋藤 恒範 (昭和45年卒) 旭日双光章 専門工事業振興功労
富永 俊彦 (昭和47年卒) 旭日双光章 保健衛生功労
吉田 肇 (昭和47年卒) 瑞宝中綬章 裁判官功労
細川 泰廣 (昭和48年卒) 瑞宝小綬章 国土交通行政事務功労

令和 7 年 春の叙勲 受章者

近藤 良樹 (昭和38年卒) 瑞宝小綬章 学校保健功労
佐藤 一郎 (昭和39年卒) 旭日中綬章 私学振興功労
大竹 將夫 (昭和43年卒) 瑞宝小綬章 地方自治功労
熊谷 幸三 (昭和44年卒) 瑞宝中綬章 地方自治功労
松本 治男 (昭和46年卒) 瑞宝中綬章 警察功労
富浦 良治 (昭和47年卒) 旭日双光章 地方自治功労
島田 啓二 (昭和48年卒) 旭日双光章 保健衛生功労

令和 7 年 秋の叙勲 受章者

米延 策雄 (昭和41年卒) 瑞宝中綬章 保健衛生功労
宮城 勢治 (昭和40年卒) 瑞宝小綬章 教育研究功労
布谷 直人 (昭和53年卒) 旭日双光章 保健衛生功労
豊田 滋生 (昭和24年卒) 瑞宝単光章 自衛隊協力功労

【叙勲の掲載についてのお知らせ】

叙勲記事の掲載につきましては、正確な本人確認が困難なため、ご本人からの申請に基づき、事務局で確認できた方についてのみ掲載させていただきますので、ご理解をお願いいたします。

同窓会事務局長退任挨拶

綱島 久美子 (昭和55年卒)

事務局長として3年間、大変お世話になりました。
様々な同窓会活動を通じて、多くの先輩、後輩の皆さまと出会いお話しできたこと、そして学校行事にも積極的に参加させて頂き、教職員の方々との関わりも楽しく、何よりの喜びでした。
昨年は5年に一度の同窓会名簿発行、そして創立150周年記念事業実行委員会では、学校、松柏会、後援会、そして同窓会が一丸となって取り組み、慌ただしくも充実した1年となりました。また就任と同時に立ち上げた、学校の今や同窓生の活躍を伝える

ホームページは私の宝物です。「楽しみにしている」というお声が、何よりの励みでした。

昨年末からの入院により、12月をもって退任することとなり、心残りは尽きませんが、皆さまからの温かいエールに支えられ、前向きに過ごしております。

至らぬ点多々あったかと思いますが、本当に楽しい3年間でした。深く感謝申し上げますとともに、同窓会の益々のご発展を心より祈念いたします。

同窓会事務局長就任挨拶

林田 寿美礼 (平成11年卒)

このたび、同窓会事務局を引き継がせていただくこととなりました林田寿美礼と申します。会員の皆さまにおかれましては、日頃より同窓会活動にご理解とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

昨年母校は、創立150周年という記念すべき節目の年を迎えることができました。これもひとえに、長年にわたり同窓会活動を支え、母校への思いを受け継いでこられた諸先輩方をはじめ、多くの会員の皆さまのお力添えの賜物であり、深く感謝申し上げます。

また、綱島前事務局長には、同窓会運営の中心として多大なるご尽力を賜ってまいりました。会員相互のつながりを大切にしながら、同窓会活動の発展と円滑な運営にご尽力いただいたそのご功績に、心より感謝申し上げます。

そのような大切な役割を引き継ぐこととなり、身の引き締まる思いであります。先輩方が築き上げてこられた伝統を大切に受け継ぎながら、同窓会が世代を超えてつながり、会員の皆さまにとって身近で温かい交流の場であり続けられるよう努めてまいります。微力ではございますが、皆さまからのご指導、ご助言を賜りながら、取り組んでまいります。

今後とも同窓会活動への変わらぬご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

会報は次号よりWeb版へ新しく生まれ変わります



来年度から会報の紙面発行は行わず、ホームページでの公開となります。今後はホームページを通じて、同窓会の最新情報や会報をご覧ください。

日頃より同窓会の活動に、多大なるご理解と温かいご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

さて、これまで同窓会では、会報誌を会員の皆さまのお手元へ郵送にてお届けしてまいりました。しかしながら、昨今の印刷費・郵送料の高騰等により、紙面による発行が難しくなってきました。

こうした状況の中、これからも安定して、より多くの皆さまに会報をお届けし続ける為に、役員会において冊子が妥当かどうか慎重に検討を重ねてまいりました。

その結果、令和8年2月の臨時役員会において令和9

年度より、同窓会会報を同窓会公式ホームページでの掲載・閲覧を基本とする形へ移行させていただくこととなりました。

ホームページでの公開となることで、同窓会活動の様子をカラーで、これまで以上に鮮明にご覧いただけるほか、スマートフォンやパソコンから、ご自宅でも外出先でも、過去のバックナンバーを含めていつでも気軽に閲覧していただけるようになります。

より身近に、より気軽に同窓会の活動を感じていただき、これからも皆様とともに歩みを重ねてまいりたいと存じます。

今後とも、同窓会への温かいご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。

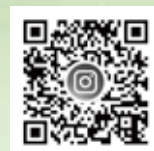
アクセスは
こちらから



同窓会 HP



Facebook



Instagram



LINE



旧徳中・城南高校同窓会ゴルフコンペ 第16回「渦の音カップ」のご案内



日 時：令和8年10月11日（日曜日） AM 8：32 スタート
場 所：サンピアゴルフ倶楽部
費 用：プレー費 ￥14,220（税込、食事別）、参加費 ￥3,000
幹 事：平成2年卒 金森弘一郎 090-3786-3071
呼びかけ人：昭和37年卒 森 壮太郎
お申込み：各学年幹事へ別途ご案内を申し上げます

事務局の案内

同窓会などのお問い合わせは、下記の各事務局までお願いします。
同窓会・後援会ホームページもご活用ください。

旧徳中・城南高等学校同窓会事務局

〒770-8064

徳島市城南町2丁目2-88 城南高校内
林田 寿美礼（平成11年卒）

☎ 088-652-0084 📠 088-656-0484

Mail jonan.dousokai@gmail.com

HP <https://jonan-dosokai.com>

渦の音クラブ（関東支部）事務局

〒112-0001

東京都文京区白山4丁目24-17

賀川 浩一（昭和54年卒）

Mail info@uzunooto.jp

HP <http://uzunooto.jp>



日々の活動はフェイスブックでも発信中
「渦の音クラブ」に「いいね」をよろしく

城南FS会（近畿支部）事務局

〒665-0845

宝塚市栄町3-1-11-903

事務取扱は下記まで

〒771-2501

徳島県三好郡東みよし町昼間573-2
糸田川 廣志（昭和42年卒）

☎ 0883-79-3270

Mail hiro4823ito@yahoo.co.jp